

「平塚市地域公共交通網形成計画（素案）たたき台」の修正箇所

資料 - 2 別紙1

No.	ページ	第2回平塚市地域公共交通活性化協議会の主な意見（-は、今回の追加内容）	修正・追加内容
1	p.2 p.8	移動だけでなく、駅のバリアフリー等、施設の使いやすさについても考慮すべきである。	1-3本計画の位置付けに、関連計画として「平塚市バリアフリー基本構想」を追加する等の修正を行いました。併せて、1-4-2関連計画に、(2)平塚市バリアフリー基本構想（バリアフリー化の取り組み概要）を追加しました。
2	p.7	-	1-4-2関連計画（1）平塚市自転車利用環境推進計画の概要に、平塚駅周辺の駐輪場の整備を追記しました。
3	p.10	-	1-7計画の概要を追加しました。
4	p.11	POINT欄に「・市域南部の市街地は概ね平坦な地形である」とあり、南部という表現がページによって指している地域が異なるため、表現の工夫が必要である。	「・市域の大部分が平坦な地形である。」に修正し、「・市域の北西部に一部丘陵地がある。」を追記しました。
5	p.12	2-2-1土地利用の状況について、本文とグラフの数値が異なっている。本文及びPOINT欄に「・平成17年と比較して、国道134号の4車線化などの道路整備が行われている」とあるが、図から読み取ることができない。国道134号の4車線化は新規路線の整備ではないため、道路整備の表現を工夫したほうがよい。	「たたき台」では、平成17年と平成27年の土地利用割合を比較したグラフを掲載し、本文に道路・駅前広場等の説明文を記載していましたが、特筆すべき事項ではないため、本文の一部とグラフを削除する修正を行いました。
6	p.14 p.23	観光の視点を取り入れたほうがよい。	2-2-2(2) 主要な施設の立地状況のPOINT欄及び凡例に観光地を追記し、図に平塚八景や馬入のお花畑を追加プロットしました。また、3-2バスのPOINT欄に「観光地へのバス路線が確保されている」を追記しました。
7	p.15	表2.1 東部地域 大野地区 「～進むとともに、地域の東側に位置する相模川沿いなどに大規模な工業系～」とあるが、県道606号（大島明石）沿いにも工場が集積しているため、表現を検討が必要である。	「～進むとともに、地域の東側に位置する相模川沿いや県道606号（大島明石）の沿線に大規模な工業系～」に修正しました。
8	p.15	事業・計画等に具体的な年次を記載したほうがよい。 表2.1 北部地域 神田地区 ツインシティ 「また、計画人口として、居住人口3,300人・従業員人口6,000人を旨とする『ツインシティ大神地区土地区画整理事業』のまちづくりが進められている。」	「また、大神では、計画人口として、居住人口3,300人・従業員人口6,000人の『ツインシティ大神地区のまちづくり』が進められていて、2020年のまちづくりを目指して、土地区画整理事業が実施されている。」に修正しました。
9	p.16	事業・計画等に具体的な年次を記載したほうがよい。 表2.1 西部地域 土沢地区 神奈川大学 「また、2大学施設が立地しているが、土沢地区の神奈川大学経営学部と理学部は、今後、移転が予定されている。」	「また、2つの大学施設が立地しているが、土沢地区の『神奈川大学』では、経営学部の移転が2021年に、理学部の移転が2023年に予定されている。」に修正しました。
10	p.22	東海大学前駅利用者の発着地の割合のグラフの凡例について、表現を工夫したほうがよい。	「平塚市以外が発着地」から「出発地と到着地が平塚市以外」に表現を修正しました。 「平塚市が発着地」から「出発地または到着地が平塚市」に表現を修正しました。
11	p.22	東海大学前駅までのアクセス手段はどのようになっているか。	分析結果については、別資料で整理しました。
12	p.25	その他移動支援策の利用について具体的な数値はどのくらいか。	その他の移動支援策の表にそれぞれ備考欄を設け、実績等を追記しました。 ・福祉有償運送：平成29年度実績 6事業者、33台稼働（事業区域には近隣市町も含んでいる） ・タクシー利用助成事業：平成29年度実績 配布人数 約1000人/年 ・シャトルバス：平成29年度実績 往路4便 復路1便 約8150人/年
13	p.25	スクールバスの運行について記載しないのか。	本文2行目「～実施されています。」以降に、「また、特別支援学校等の一部でスクールバスの運行がされています。」を追記しました。
14	p.28	「路線バスによる周辺市町との移動状況は、厚木市とのつながりが強い」の表現を工夫したほうがよい。	「路線バスによる周辺市町との移動状況は、厚木市との動きが最も多い」に修正しました。
15	p.29	4-1-2市民生活における移動実施について、代表的な交通手段は最も移動が長いものなのか、人によって捉え方が異なるため、全交通手段を把握する必要がある。	「全交通手段」による集計結果に変更することで、代表的な交通手段の「鉄道」に含まれていた「バス」や「自転車」等の交通手段の利用が明確になるように修正しました。
16	p.30-32 p.33-35	地域公共交通に対するニーズについて、どの交通手段で不便を感じていて、また、どのような理由で不便と感じているのかわからない。クロス集計をしないと課題が見えてこない。赤で強調されているデータを中心に細分化して分析するとよい。	地区別の公共交通が不便と感じている人を対象に、交通手段の利用頻度のクロス集計を追加しました。 また、各年代別の公共交通が不便と感じている人を対象に、交通手段の利用頻度のクロス集計を追加しました。
17	p.38,39	交通空白地域および交通不便地域におけるバス停圏域650mの設置根拠について、再度、検討したほうがよい。また、高低差等を考慮すべきではないか。	市民アンケート調査結果で、郊外部における「自宅からバス停までの歩行時間」の許容度が比較的高いことから、市街化調整区域におけるバス停圏域を650mに設定していましたが、今回、市街化区域及び市街化調整区域ともに325mに修正しました。また、図4.13の状況図に、地区割りの図を追加する等の修正を行いました。
18	p.44-46	アンケート調査について、市外からの買い物客を把握しているか。	4-2市内企業及び市外からの来訪者の視点からみた移動ニーズを追加しました。
19	-	アンケート調査は、市外から流入する学生も多いので、高校を対象にアンケート調査を実施してはどうか。	資料-1に、調査結果をとりまとめました。
20	p.47-49 p.79-101	地域公共交通における課題の地区ごとのまとめについて、地区別の状況が読み取れない。地区別の課題が一目でわかるように1枚にまとめた表があるとよい。	地区別の課題について、資料編（p.79-101）に地区別調書（11地区）として整理しました。 また、p.49に、平塚市全体の現況整理と課題のイメージ図を追加しました。
21	p.50-52	-	6-1地域公共交通網形成の基本理念を追加しました。 6-2地域公共交通網形成の基本方針のイメージ図を追加しました。
22	p.51	基本方針に、自家用車依存からの脱却が必要という記載があるが、高齢者だけでなく、他の世代も含めた脱却であれば、その説明の記載が必要ではないか。	第2回協議会でご提示した4つの基本方針について、順番の入れ替えや説明文の追記など、全体的な修正を行いました。
23	p.51	基本方針に、真田・北金目地区や神奈川大学のバス事業の在り方など、外部要因を考慮すべきではないか。	第5章で、まちづくりの状況や市民アンケート調査結果等の外部要因等から地域公共交通の課題を整理した上で、第6章に、基本理念と基本方針を掲げました。また、7-2施策及び実施主体に示す各施策シートにおいても、外部要因を整理した上で、実施施策を位置づけました。
24	p.53-73	-	第7章に地域公共交通網形成の施策及び実施主体を追加しました。
25	p.74,75	-	第8章に計画の進め方を追加しました。
26	p.79-101	-	資料編を追加しました。